

令和8年1月16日

令和7年度あけぼの大豆の生育概況と今後の対策について

峡南地域普及センター

身延町産業課

1 気象の推移と生育状況

【6月中旬～7月（は種期～株の生育期）】

- ・6月上旬は、平年より降水量が多くなったが、6月中旬～7月上旬は降雨が少なく、特に6月下旬はほとんど降雨がなかった。7月中旬は台風の影響で降水量は平年よりかなり多くなったが、梅雨明け(7/18)以降は乾燥し、7月下旬の降水量は平年より非常に少なかった(平年比1%程度)。
- ・気温も高く、6月・7月の平均気温は平年比+2.0℃程度で推移した。
- ・播種～発芽までは適度な土壌水分があった圃場では、発芽は良好であったが、6月の高温や乾燥の影響で一部発芽不良となる事例も見られた。

【8月～9月（開花期～子実肥大期）】

- ・8月は降雨がほとんどなく、灌水なしの圃場では、干ばつによるしおれ症状も見られたなかで、中旬頃から開花期を迎えた。9月上旬は降雨があったが、下旬は降水がなく、9月降水量は、平年比68%と少なくなった。
- ・気温は平年に比べ高く(8月:+2.0℃、9月:+2.3℃)、落莢や不稔莢の増加に影響した。
- ・この時期は、大豆にとって最も水分が必要な時期であるため、収量に影響した。

【10月～11月（枝豆収穫期～大豆収穫期）】

- ・気温については、平年より高く推移した(+1.2℃)。
- ・10月は定期的に降雨があったが、全体の降水量は少なくなった(平年比51%)
高温・乾燥の影響で枝豆の収穫期の遅延、大豆は、青立ちの発生が見られた。

【病害虫の発生】

- ・7月～8月の高温乾燥により、「ハダニ類」による被害が見られた。
- ・気温が高いため「ハスモンヨトウ」の被害が前進化している。「カメムシ」についても発生が見られた。
- ・収穫期が遅延したため、収穫期後半の枝豆には「マメシクイガ」の被害あり。

【結莢不良の発生】※一部の園で発生

- ・7月～8月の高温乾燥による落莢や不稔莢の増加。
- ・窒素過多などによる日照不足も結莢に影響。薬剤防除の回数が少ない園も事例として見られた(カメムシによる被害と思われる)。



図1 乾燥による生育遅延(8月初め)



図2 結莢不良(撮影:9月下旬)

2 今後の安定生産に向けて

現地事例などから栽培について実施したいポイント

①灌水の実施。現地事例では、7月下旬から8月下旬にかけて7～10日間隔で1回実施。土壌の乾燥具合や排水性に応じて回数や期間を調節。

②中耕培土を2～3回行い、不定根・根粒菌の生育を促進する。

③日照条件を良くするため、株間を45cm以上にする。

特に播種を6月上旬に行う場合は、播種量を減らしてやや疎植にする。

④播種は6月中に行う(7月だと遅い)。

高温・乾燥により発芽不良を招くため、天気予報を確認し、降雨に合わせて播種する(播種後、雨が見込めない時は播種時期をずらすなど)。

発芽を良くするため:種子消毒、土づくり、土壌物理性の改善

<種子消毒>クルーザーMAXX(青色)の塗布。

<土づくり>播種の2週間～1ヶ月前に堆肥の施用。

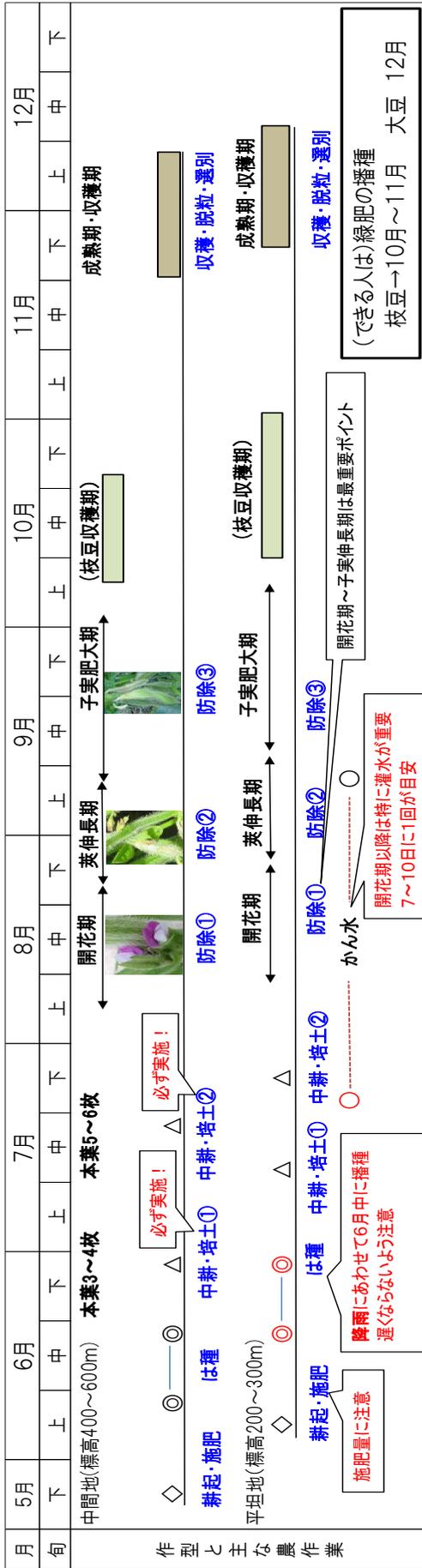
緑肥の活用:ヘイオーツ、ヘアリーベッチなど。大豆収穫後、土壌凍結前に播種(ばらまき後に軽く耕耘、開花前にすき込む)

<土壌物理性の改善>耕うん・碎土で表層を細かく碎土。

<その他>鳥獣害対策で再播種を防ぐ:電気柵、テグス、かかしなど

⑤土壌診断に基づき不足が見られる場合は基肥で補給(特に、苦土、カリ)

⑤薬剤散布(防除)は、栽培暦を参考に3回程度実施。



防除時期	薬剤名	対象病害虫	使用基準	
			倍率	収穫前日数
①開花終わり (8/20頃)	スミチオン乳剤 ※1	カメムシ類、マメシクイガ等	1,000倍	収穫21日前
	ゲッター水和剤 ※2	紫斑病	1,000倍	収穫14日前
②子実伸長期 (8/30頃)	トレボン乳剤	カメムシ類、マメシクイガ等	1,500倍	収穫7日前
	ゲッター水和剤 ※2	紫斑病	1,000倍	収穫14日前
③子実伸長期 (9/10頃)	トレボン乳剤	カメムシ類、マメシクイガ等	1,500倍	収穫7日前
	アニキ乳剤	カメムシ類、マメシクイガ等	1,000倍	収穫14日前
秋が高温の 場合 (9/20頃~)	アニキ乳剤	ハスモントウ	2~3,000倍	収穫前日
	フレバソフロアブル ⁵	ハスモントウ、 マメシクイガ	4,000倍	収穫7日前
	グレースシア乳剤	ハスモントウ、 マメシクイガ	2~3,000倍	収穫3日前
	グレースシア乳剤	ハスモントウ、 マメシクイガ	2~3,000倍	収穫14日前

令和7年度 あげぼの大豆試験内容一覧

◆曙地区

圃場		計画	えだまめ	大豆	
			収量調査	収量調査	
矢細工 試験圃場	第1	収量品質向上技術検討① (灌水システムの活用による 高温乾燥対策)	無処理	①	①
			灌水区	②	②
	第2	収量品質向上技術検討② (追肥)	無処理	③	③
			追肥① 尿素	④	④
			追肥② LPコート70	⑤	⑤
合 計			5	5	

【追肥】 追肥①: 病虫害防除と併せて液肥(開花14日後、開花28日後)試験理由→農薬散布と同時にできる。コストが1番安い。

【追肥】 追肥②: LPコート70日 施用量10kg 培土期施肥

尿素、LPコート は農務事務所で購入

【成分分析】 R7 は実施なし

◆平坦地

圃場		計画	えだまめ	大豆
			収量調査	収量調査
八日市場ほ場	収量品質向上技術検討③ (摘心)	摘心	⑥	
		摘心+LP	⑦	
		無処理	⑧	
西嶋ほ場	収量品質向上技術検討④ (白絹病①排水)	多破碎区	⑧	
		少破碎区	⑨	
		無処理	⑩	
西嶋ほ場	収量品質向上技術検討⑤ (白絹病②薬剤)	薬剤散布	⑪	
		無処理	⑫	
西嶋・八日市場・宮 木 ほ場	収量品質向上技術検討⑥ (カメムシ ※)	薬剤散布	⑬	
		無処理	⑭	
合 計			10	0

※ 別途 発生予察調査を実施

2 矢細工試験地などの試験状況について

①灌水システムの活用による高温乾燥対策

- ・開花期から子実肥大期に週2回程度灌水を実施。
- ・灌水により、莢数の増加し、**収量が増加(約 1.4 倍)**

表1 開花期以降の灌水が「あけぼの大豆(えだまめ)」の生育や収量に及ぼす影響(2025)

試験区	主茎長 (cm/株)	可販莢数 ^z (個/株)	可販莢重 (g/株)	換算可販収量 ^y (kg/10a)
灌水あり	85.2	157	555	1388
対照(灌水なし)	70.6	111	396	990

z)未熟莢・病害虫莢を除いた販売可能な莢

y)2500株/10a で換算

②追肥(尿素葉面散布、LPコート70)及び摘心の効果確認

- ・開花前～子実肥大期にかけて尿素的葉面散布により、収量向上。圃場が異なることや去年までの収量比較など勘案すると、**2割程度の収量向上**と思われる。
- ・2回目の中耕培土前にLPコート70の施用により、**1割程度収量向上**
→昨年度も収量向上効果を確認している。
- ・開花前(7月下旬)に摘心を実施。対照の方が摘心区より収量が多くなり、収量向上効果は見られなかったが、主茎長は低く、倒伏対策につながると期待される。

表2 追肥や摘心が「あけぼの大豆(えだまめ)」の生育や収量に及ぼす影響(2025)

圃場	試験区	主茎長 (cm/株)	可販莢数 ^z (個/株)	可販莢重 (g/株)	換算可販 収量 ^y (kg/10a)
矢細工 ^x	尿素	86.4	156	658	1645
	LPコート70	73.4	121	436	1090
	対照	70.6	111	396	990
八日市場	摘心	81.4	146	346	865
	摘心+LPコート70	82.0	98	309	773
	対照	91.4	112	460	1150

z)未熟莢・病害虫莢を除いた販売可能な莢

y)2500株/10a で換算

x)尿素は第2圃場、LPコート70と対照は第1圃場

③排水対策の検討

- ・アースオーガーを用いて、耕盤破碎を実施。
- ・破碎により、収量が増加する区と増加しない区があり、効果は判然としなかった。

表3 耕盤破碎^zが「あけぼの大豆(えだまめ)」の生育や収量に及ぼす影響(2025)

試験区	主茎長 (cm/株)	可販莢数 ^y (個/株)	可販莢重 (g/株)	換算可販収量 ^x (kg/10a)	土壤病害 の発生
多破碎区	94.8	113	381	953	無
少破碎区	101.8	196	646	1615	無
対照(破碎なし)	92.0	138	450	1125	無

z)多破碎:概ね10m間隔、少破碎:概ね20m間隔、6/5に実施

y)未熟莢・病害虫莢を除いた販売可能な莢

x)2500株/10a で換算



図1 アースオーガでの耕盤破碎

図2 生育期の様子(7/31)



⑤カメムシの発生消長調査

・西嶋、八日市場、宮木の計3地区でホソヘリカメムシのフェロモントラップを設置。雄幼虫の誘殺状況を調査（7月～9月）。

→西嶋：8月下旬から発生が始まり、9月上旬頃に発生量がピークとなった。

八日市場：8月中旬から発生が始まり、9月上旬頃に発生量がピークとなった。

宮木：7月から発生。8月中旬頃から発生が増え始め、9月中旬が発生量のピーク。

他の地区と比較して、誘殺数が多い傾向であった。

・大豆の莢伸長期（開花 15～20 日後；8 月下旬以降）にカメムシ類の被害リスクが高まる。

栽培暦を参考に 8 月中～下旬に 1 回目の薬剤防除、9 月上～中旬に 2 回目の薬剤防除を行う。本年の気象は高温で推移したため、カメムシの発生時期が前進化したことも想定される。地区によって発生時期や発生量が異なるので、園でのカメムシ発生状況などを確認し、防除時期を決定してほしい。

<2025 のような高温の場合、防除時期の案>

西嶋：8 月下旬頃（1 回目）、9 月上旬頃（2 回目）に薬剤防除

八日市場：8 月中旬～下旬（1 回目）、9 月上～中旬（2 回目）に薬剤防除

宮木：8 月中旬頃（1 回目）、9 月上旬（2 回目）に薬剤防除

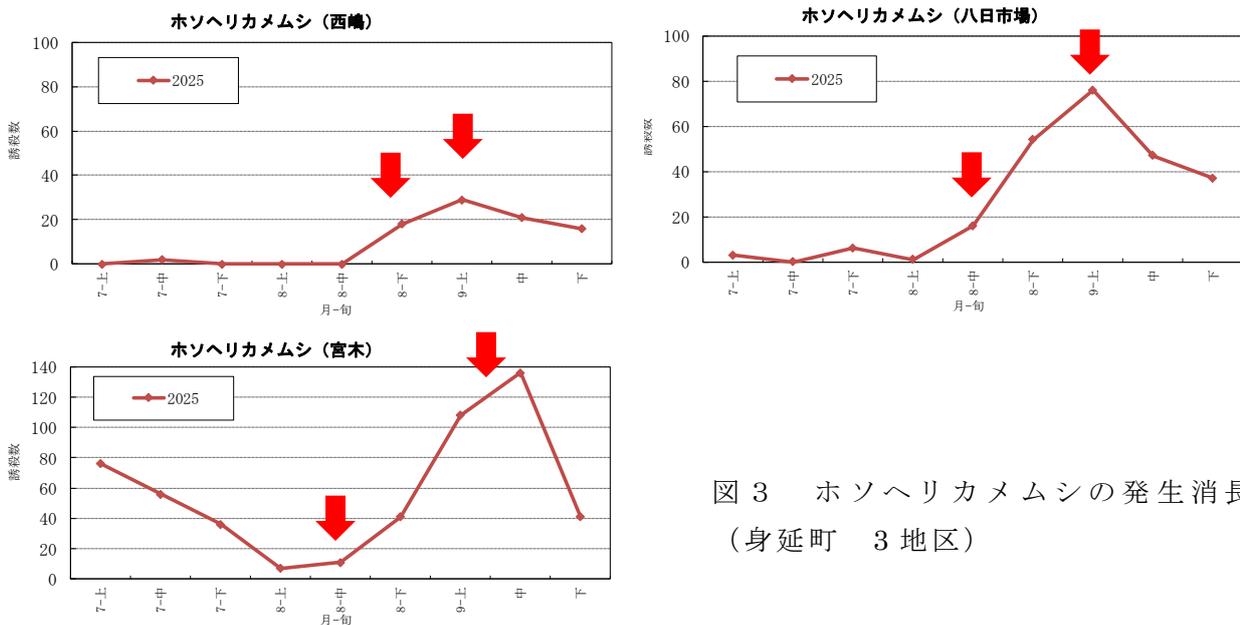


図3 ホソヘリカメムシの発生消長 (身延町 3地区)

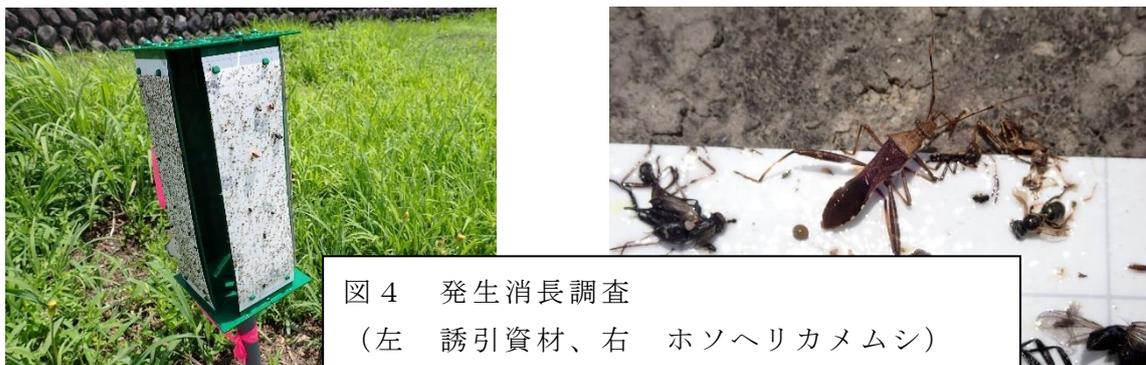


図4 発生消長調査 (左 誘引資材、右 ホソヘリカメムシ)

⑥カメムシ対策（スタークル顆粒水溶剤）の検討

- ・栽培暦の防除体系のうち、子実肥大期の防除薬剤を「スタークル顆粒水溶剤」に変えて散布。
- ・実証区も慣行区と同程度の収量を確保。カメムシ被害率も同程度（データ略）
- ・単年度の結果なので今後も検討が必要だが、トレボン乳剤よりもコストを抑えることが可能であり、活用が期待できる。

	8月中旬	子実肥大期 (8月下旬)	子実伸長期 (9月上旬)	9月下旬
実証区	スミチオン乳剤 1,000倍	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 加用 ゲッター水和剤 1,500倍	トレボン乳剤 1,000倍 加用 ゲッター水和剤 1,500倍	アニキ乳剤 2,000倍
対照区		トレボン乳剤 1,000倍 加用 ゲッター水和剤 1,500倍		

⑦鳥獣害防止策（獣塀くんライト）の効果検証

- ・播種前(6月上旬)に設置。電気柵とメッシュ資材と防獣ネットを組み合わせた対策を実施し、生育や鳥獣被害抑止効果の確認を実施。
- ・センサーカメラを設置したところ、サル、アナグマ、シカの姿が確認できた。
- ・対策の実施により、従来被害のあった獣害がなく、侵入防止効果及び被害防止効果が高いことが確認できた。



令和8年度栽培試験(案)

●栽培講習会の目的

町内あけぼの大豆生産者に対し、新たな栽培方法の講習、試験結果のフィードバック、先進技術導入に関する啓蒙等を行い、継続的な収量・品質の向上を目指す

●過去の講習会内容

令和6年度 ①座学(6/12)…芦澤 L・竹ノ内さん・浅野さんによる講習会 52名

②実地研修・矢細工(6/19)…摘心・中耕培土 30名

③実地研修・矢細工(8/20)…動噴を使った防除 25名

令和7年度 ①座学(6/11)…芦澤 L・山本さんによる栽培と獣害対策 44名

②実地研修・矢細工(7/23)…摘心・中耕培土・意見交換質疑応答 41名

③実地研修・矢細工(随時)…播種・摘心・中耕培土・防除・大豆収穫

●令和8年度(案)

○(5月末)…播種時の注意点、セルトレイ・補植、土寄せについて

○(11月)…脱粒機の作業講習、操作の仕方、注意点、メンテナンスの徹底

○実地研修は西嶋(浅野さんほ場)を想定

○その他どのような講習会があると有意義でしょうか

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
あ3	矢細工	6/8	38cm	80cm	2回	1回	1.スチオン 2.スチオン 3.トルボン	
1	A 西嶋	6/13	54cm	100cm	3回	5回	1.スチオン 2.トルボン	一部、成長が茎葉にいつってしまったところは、あまり実がつかなかった。その場所は圃場全体に水が行き渡らなかったため、灌水を多くしたこともあり、それも一因かもしれない。
2	C 久成	6/13	30cm	30cm	2回	0回	無し	
10	A 西嶋	6/22			3回	0回	1.スチオン 2.トルボン 3.トルボン	
11	B 夜子沢	6/23 -24			1回	0回	1.スチオン 2.トルボン 3.トルボン	
12	C 久成	6/20	45cm	90cm	2回	2回	1.スチオン 2.トルボン 3.アキ乳剤	
14	B 日向南沢	6/25	50cm	40cm	2回	0回	1.スチオン 2.トルボン	
17	B 日向南沢	6/21	40cm	90cm	0回	0回	1.スチオン 2.トルボン	
27	A 西嶋	6/20	45cm	90cm	1回	0回	1.スチオン 2.トルボン	
31	D 八日市場	6/16	45cm	90cm	2回	0回	1.スチオン 2.トルボン 3.トルボン	
33	B 手打沢	6/26	45cm	90cm	2回	1回	1.スチオン 2.トルボン 3.アキ乳剤	

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
42	G 清澤	6/13-14	50cm	90cm	2回	9回	1.スミチオン 2.スミチオン 3.トレボン 4.プレバソ 5.プレオフロアブル	播種を前年より早めた事でその後の発育が良かった。 6月下旬から猛暑日が続く畝間に延べ12日灌水する。猛暑日が続く状況下においては、早めの灌水が生育を左右する重要ポイント。 7月21日フタスジヒメハムシ・マルカメムシ確認。スミチオン乳剤で駆除する。 9月7日ハスモンヨトウ確認、プレオフロアブルで駆除する。 8月初旬芯が根元で枯れる病気が圃場の一部にまとまって発生した。 10月7日ハスモンヨトウ確認、プレオフロアブルで駆除する。 莢の出来栄は例年通り良好だった。
44	G 市之瀬	6/13	45cm	100cm	2回	2回	1.スミチオン 2.スミチオン 3.トレボン 4.トレボン	
51	I 相又	6/16	45cm	100cm	2回	3回	1.スミチオン 2.スミチオン 3.トレボン 4.プレバソ 5.グレース	今年度は発芽率が悪く、約300本ほど補植が必要となり猛暑の中苦労した。 (毎年補助用と同じ圃場の中に種まきをしてある。) 少雨と暑さで灌水のタイミング等に苦労した。(用水路からの取入れは簡単である。) 虫の種類と薬剤の選定を安定させたい。(8月末頃からプレバソやグレースに変更予定) 8月末の時点でハスモンヨトウの老齢虫がおりました。 葉にしわや黄色みがかかった枝が見られ、他の株に比べると生育不足と実の付きが少ない。 今年度も白絹病の発生があり、対策が必要である。
58	H 下山	6/21	45cm	90cm	2回	4回	1.スミチオン 2.トレボン 3.プレバソ	雨が少なくて栽培するのが難しくなっていくような気がする。
60	F 宮木	7/22	50cm	90cm	1回	0回	1.スミチオン 2.スミチオン 3.トレボン	生長の悪い株元に化成肥料8-8-8を少々。
64	G 常葉	6/28	60cm	100cm	1回	3回	1.トレボン 2.スミチオン 3.スミチオン 4.トレボン	

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
65	G 常葉	6/20	45cm	95cm	3回	3回	1.スチオン 2.バールト 3.アディオン707 4.ブル	開花が8月だけでなく9月上旬もあり
68	C 久成	6/17	40cm	100cm	0回	0回	1.スチオン 2.スチオン 3.プレバツ 4.トレボン	
84	D 八日市場	6/21	45cm	90cm	1回	0回	1.スチオン 2.トレボン 3.トレボン	
87	C 平須	6/9	45cm	90cm	2回	0回	1.スチオン 2.スチオン 3.スチオン 4.トレボン 5.トレボン	
100	I 相又	6/18	50cm	90cm	1回	2回	1.スチオン	防除期体調を崩して、防除不足による虫食い多いと思われる。
109	H 下山	6/9			0回	3回	1.スチオン 2.トレボン 3.プレバツ	
114	B 日向南沢	6/21	40cm	90cm	0回	0回	1.スチオン 2.スチオン 3.トレボン	播種の直後、ハト、カラス、サルにやられた。 播種3回するが、成長が遅れ、不良 枝豆、サルの侵入多く、出荷は少しだけ。
117	H 下山	7/3	45cm	90cm	1回	1回	1.スチオン 2.トレボン 3.アキ乳剤	
124	D 八日市場	6/15	60cm	90cm	1回	0回	1.コマイト 2.スチオン 3.トレボン 4.プレバツ 5.トレボン 6.プレバツ707 7.アブル	莢が成長せず、未熟のままが圃場の2/3を占める。
139	I 梅平	7/14	40cm	90cm	1回	2回	1.トレボン 2.スチオン	

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
141	F 宮木	6/13	50cm	100cm	2回	0回	1.スチオン 2.スチオン 3.ゲッター/ ニツラン	株はしっかりしていたが、莢がつかない。莢の膨らみが小さいものが多く、枝豆として出荷することができなかった。大豆も
142	A 西嶋	6/22	40cm	100cm	2回	3回	1.スチオン 2.トボン 3.スチオン 4.スチオン	西嶋地内で栽培しているところでは、播種後ハトに食べられてしまい、株が減ってしまった。
145	F 宮木	6/23	45cm	95cm	2回	3回	1.スチオン 2.スチオン 3.トボン	実入りが大変ない。 白絹病大量発生、前年水稻耕作したが効果なし。
149	B 寺沢	6/19	45cm	80cm	2回	3回	1.スチオン 2.トボン	
153	H 下山	6/19	40cm	90cm	1回	2回	1.スチオン 2.トボン 3.トボン 4.プレバツ	
160	F 飯富	6/15	40cm	85cm	2回	3回	1.スチオン 2.トボン 3.スチオン/ トボン 5.ヨマト	昨年、発育が悪くて色の薄い葉の所に牛糞を蒔いたら今年は良好！ 7年目の1日は田の所が1/3位が発育不良でした。何も肥料をしなかったの、今腐葉土を作っています。来春はそれに牛糞と緑肥を検討中です。
166	G 切房木	6/19	45cm	85cm	1回	2回	1.スチオン 2.トボン 3.トボン 4.プレバツ 5.グレーシア	
167	G 切房木	6/19	45cm	85cm	1回	2回	1.スチオン 2.トボン 3.トボン 4.プレバツ 5.グレーシア	
170	G 道	6/13	45cm	90cm	1回	5回	1.スチオン 2.トボン 3.トボン 4.グレーシア 5.プレバツ	6月の梅雨時、少雨6/14、6/23、6/26の他、雨降らず猛暑日続きで発育不良。連日水やりする 7月 7/15、16、17と少雨降るも連日猛暑日で生育悪かった。乾燥地割れも起こった。 8月 猛暑続きで生育悪く、樹勢弱く灌水。9/11、12少雨、9/19、20雨降りて生気を取り戻した。

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
175	G 常葉	6/9	50cm	90cm	1回	0回	1.スミオン 2.トボロン 3.プレバロン	
180	G 波高島	6/14	40cm	90cm	3回	0回	1.スミオン 2.スミオン 3.トボロン 4.トボロン	
183	C 久成	6/18	45cm	90cm	2回	2回	1.スミオン 2.スミオン 3.トボロン	
184	D 八日市場	6/14	30cm	110cm	1回	0回	1.スミオン 2.マラソ 3.マラソ	
186	D 八日市場/18~6/3	6/18	50cm	100cm	4回	0回	1.スミオン 2.トボロン 3.スミオン 4.トボロン 5.プレバロン 6.アルバロン	早い時期(7月中下旬)から、カメムシ、バッタ、ハダニ類が多くみられた。ハスモンヨトウは去年より少ない、実付き等は例年通りで問題なし
188	G 常葉	6/19	45cm	100cm	2回	3回	1.スミオン 2.スミオン 3.トボロン 4.プレバロン	
190	F 宮木	6/20	45cm	90cm	1回	3回	1.スミオン 2.トボロン	
195	I 清子	6/21	45cm	90cm	1回	0回	1.スミオン 2.スミオン 3.クチオン 4.トボロン 5.プレオロアブ	
213	F 宮木	6/24	45cm	90cm	3回	5回	1.プレバロン	株丈バラバラ。水が入ったエリア:80~90cm程/入らなかったエリア:40~50cm。乾燥しやすい畑。白絹病発生多(7月20日頃発見~9月まで)莢付き×
213	F 宮木	6/20	45cm	90cm	3回	5回	1.プレバロン	株丈60~70cm。農道側のエリアは40cm程。葉っぱの色素薄め。全体的に莢もついていない。連作?

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
213	F 宮木	6/22	45cm	90cm	3回	5回	1.プレバリン 2.トボン	摘心エリア:30~40cm/摘心なし:80~90cm どちらも莢はついているが、形はよくない。平べったい感じ。
213	F 宮木	6/26	45cm	90cm	3回	4回	1.プレバリン 2.トボン	株丈70~80cm。見付きもある。 株の大きさちょうどよく、収穫(摘み取り)するにはやりやすい。
213	F 宮木	7/3	45cm	90cm	2回	5回	1.プレバリン 2.トボン	株丈65~75cm。播種日が遅かったため、(あえてその日程)丈が小さめだが、見付きもそれなりにあった。株本も細い。
213	F 宮木	6/20	45cm	90cm	2回	5回	1.プレバリン	株丈30~60cm 灌水するが、届き切らないエリアが多く、見付きはほとんどない。
213	F 宮木	6/19	45cm	90cm	2回	4回	1.プレバリン	株丈50~60cm。葉っぱ黄色っぽくなり(10月中旬)、枯れてしま うものも多い。実付きも×。
213	F 宮木	6/13	45cm	90cm	3回	6回	1.プレバリン	株丈80~90cm 株の状態よかったが、莢は全く付かず。 とにかく乾燥しやすい畑で水を入れて1週間もたずに葉がしおれ てしまう。葉っぱも色濃く、固い。
213	F 宮木	6/21	45cm	90cm	3回	0回	無し	モザイク病みたいのが多い(株丈40~50cm) 葉っぱが固い(株丈90cm~1m)
213	F 宮木	6/26	45cm	90~100cm	3回	0回	1.プレバリン	株丈80~90cm 莢付き○ 摘心エリア40cm程 莢付き×
213	H 下山	6/21	45cm	90cm	3回	3回	1.プレバリン 2.トボン/ プレバリン	株丈90~1m 風通しがあつた外回りはある程度莢付きが良い が、内側(特に真ん中になるにつれて)はついていなかったり、莢 の形が平べったく変形したの多い。葉っぱも濃い緑で固い。 株本は木のように太い。
213	G 波高島	6/26	45cm	90cm	3回	2回	無し	株丈60~70cm。株の状態良いが、莢付きは悪い。 いつまでたっても葉っぱが緑(11月中旬)
217	I 相又	6/19	45cm	100cm	1回	2回	1.スチオ 2.トボン 3.グーリア 4.グーリア	土が浅いと、土寄せができない。脱莢機がないので、限られた人 数しか作業できない。
225	A 西嶋	6/16~18	45cm	95cm	2回	3回	1.スチオ 2.トボン 3.トボン	

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
228	古長谷	5/5	27cm	60cm	2回	0回	無し	
229	F 宮木	6/13	45cm	90cm	2回	記載なし	1.スチオン 2.バニカ 3.スチオン 4.バニカ	
230	G 上之平	6/19	55cm	90cm	3回	3回	1.スチオン 2.トボン 3.アミスター	厳しい条件下で、ここ数年初の出来栄となり、お客様に大喜びされたことを励みにして、次年度もさらに頑張ります。
239	中山	6/17	50cm	100cm	3回	1回	無し	
240	中山	6/8	50cm	100cm	2回	0回	無し	
246	C 平須	6/13	30cm	100cm	2回	0回	1.スチオン 2.スチオン 3.トボン	降雨が少なく、収穫量少ないです。
248	C 平須	6/12	45cm	75cm	2回	0回	1.スチオン 2.トボン 3.トボン	
250	A 西嶋	6/8	45cm	90cm	2回	3回	1.スチオン 2.トボン 3.トボン	
253	G 切房木	6/19	40cm	80cm	2回	0回	1.スチオン 2.トボン 3.グレース	
268	D 八日市場	6/18	75cm	90cm	1回	0回	1.スチオン 2.トボン 3.プレバツ 4.グレース	
279	A 西嶋	6/13	53cm	100cm	3回	1回	1.スチオン 2.トボン 3.プレバツ	今年も上手にできました。
279	A 西嶋	6/13	60cm	120cm	3回	0回	無し	過去最高の出来でした。

R7栽培管理記録表まとめ

No.	生産地	播種日	株間	条間	土寄せ回数	灌水回数	防除	内容
299	H 下山	6/28	50cm	90cm	0回	3回	1.スチオン 2.トボーン 3.スチオン	
318	A 西嶋	6/14	54cm	100cm	2回	3回	1.スチオン 2.トボーン 3.プレオアアブル	今年は株が大きくなったが、実付きが良くない。 消毒の際、尿素を液肥として追肥できたことはよかった。 今年も白絹病が発生した。9月にビチャビチャと灌水を行ったが、それが影響したか？
318	A 西嶋	6/21	45cm	95cm	2回	3回	1.スチオン 2.トボーン 3.プレオアアブル	ヘアリーベッチを緑肥として播いたが、土が良くなった気がする。
348	A 西嶋	6/28	60cm	90cm	1回	0回	1.スチオン 2.トボーン 3.グレーブ	今年は、梅雨が明けるのが早く芽が出るのにばらつきがあったため、防鳥糸は張ったが、ハトにつつかれる被害が昨年以上にあった。予備に撒いておいた種だけでは捕植に間に合わず、追加でポットで苗を育てて捕植したため生育に大きなばらつきが出た。9月初旬、1.2mのネットが張ってあったが、シカに数本の株の葉を食べられた。ネットの上のピンクの獣よけテープを張った後はシカの被害は出なかった。ハスモンヨトウの発生は昨年、一昨年に比べ少なかったため、防除作業は昨年の4回から3回に減らした。葉の裏かえりがなかったため、灌水はしなかった。

(まとめ)

- ・播種は6月中に行われて、土寄せも実施している生産者が多い。
- ・R8も7月では遅く、播種の時期のみならず天候との兼ね合いを周知する必要がある。
- ・灌水は実施が難しい地域もあるため、0回の生産者も多いが、今作の状況を鑑みて対応を検討してほしい。

(補足)

- ・播種は、6月15日までが約30%、6月16日以降が約70%程度。
- ・土寄せは0回が約9%、1回が約36%、2回が約40%、3回が15%。
- ・灌水は、0回が約46%、1回が約10%、2回以上が約44%。
- ・薬剤防除回数は3回以上がほとんどだが、一部、0回～2回の事例もみられる。